

香川県の地震

令和4年(2022年)3月

香川県の地震活動

震央分布図、断面図	・・・	1
地震概況	・・・	1
香川県の地震表(震度1以上)	・・・	2
震度分布図	・・・	2
お知らせ	・・・	2

南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会(注)

評価検討会調査結果 令和4年(2022年)4月7日	・・・	3
---------------------------	-----	---

(注)直近に開催された評価検討会の調査結果を掲載します。

地震一口メモ

香川県に影響を及ぼした過去の地震について	・・・	4
----------------------	-----	---

この資料の震源リスト・震源要素(緯度、経度、深さ、マグニチュード)は暫定値であり、後日再調査の上修正されることがあります。

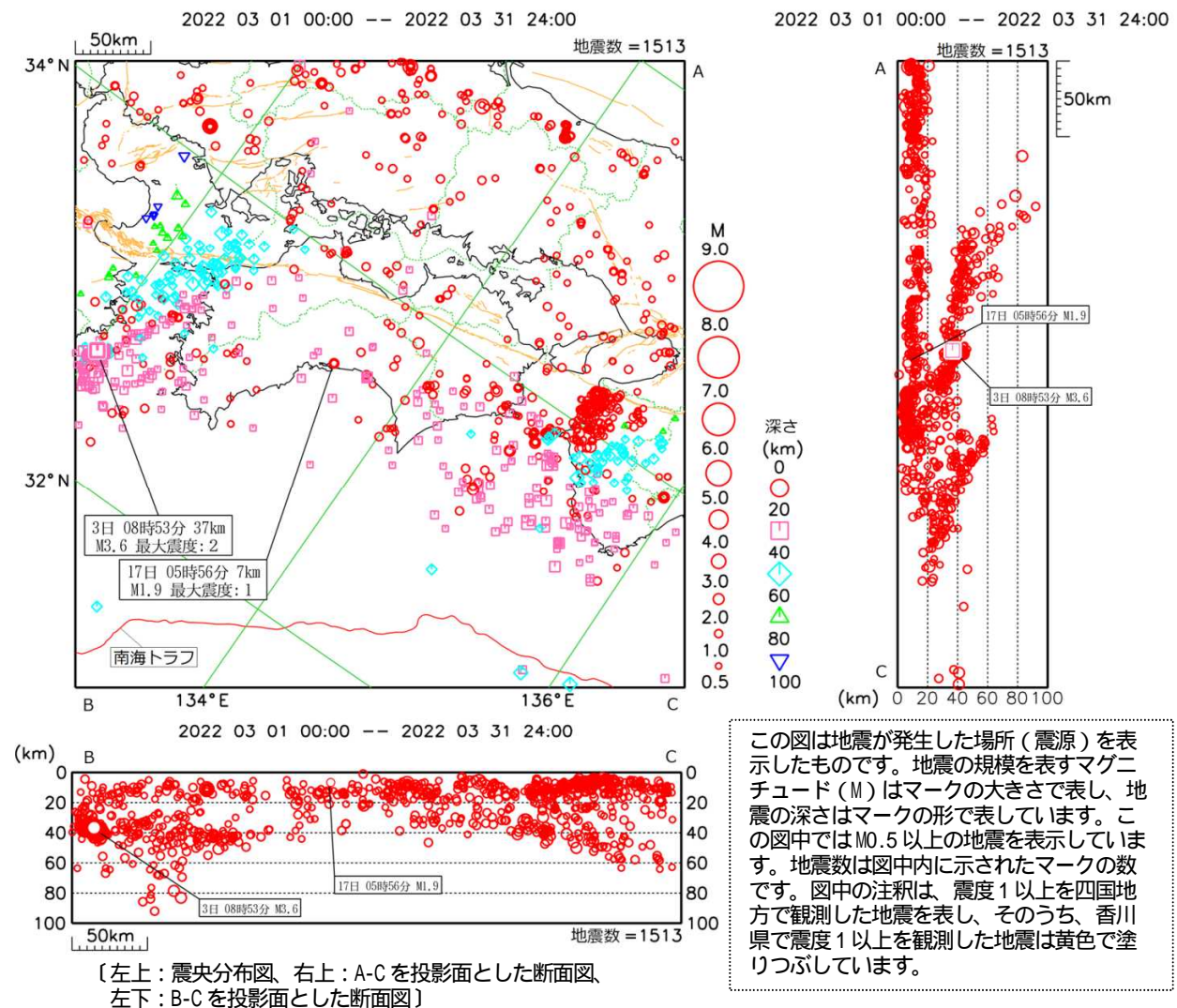
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。

高松地方気象台

【香川県の地震活動】

2022年3月

震央分布図、断面図



地震概況

香川県で震度1以上を観測した地震は、次の1回でした（前月は0回）。

31日23時34分 京都府南部の地震（深さ13km、M4.4；震央分布図地図範囲外）により、小豆島町で震度1を観測しました。この地震では、京都府京都市伏見区・亀岡市で震度4を観測したほか、東海・甲信越・北陸・近畿・中国地方にかけて震度3～1を観測しました。

四国で震度1以上を観測した地震は、前述の他に次の2回でした。

3日08時53分 日向灘の地震（深さ37km、M3.6）により、大分県佐伯市で震度2を観測したほか、愛媛県、大分県、宮崎県で震度1を観測しました。

17日05時56分 高知県中部の地震（深さ7km、M1.9）により、高知県高知市で震度1を観測しました。

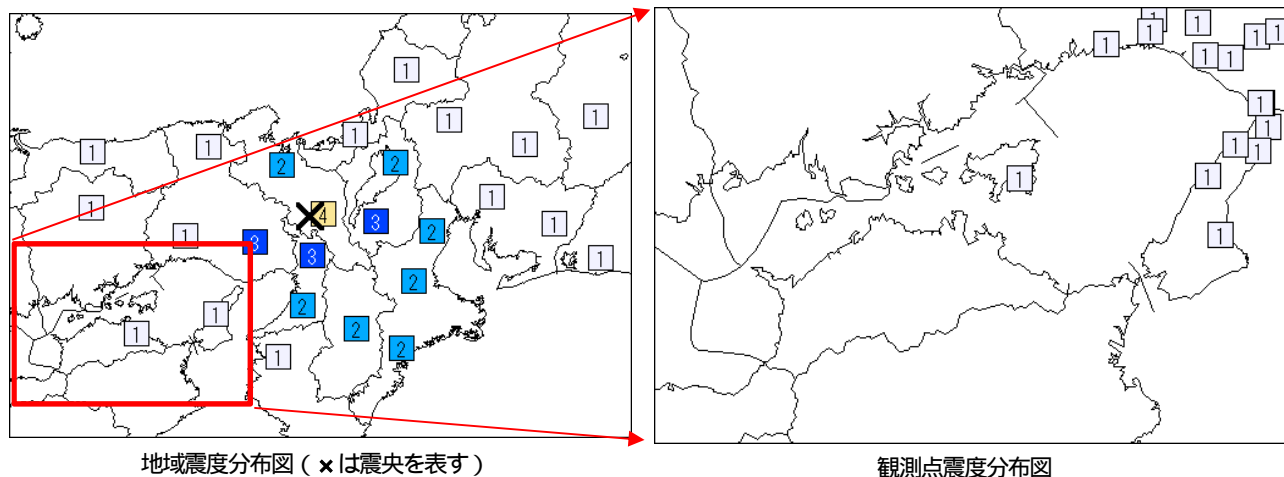
香川県の地震表（震度1以上）

震源時（年月日時分） 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
2022年03月31日23時34分 香川県 震度1：小豆島町馬木*	京都府南部	35°03.0' N	135°33.5' E	13km	M4.4

*は気象庁以外の震度観測点

震度分布図

2022年03月31日23時34分 京都府南部の地震



お知らせ

「香川県の地震活動の特徴」を公開しました。

高松地方気象台では地震及び津波に関する知識の普及啓発のため、この度、「香川県の地震活動の特徴」を公開しました。香川県で発生する地震の特徴、過去に被害をもたらした地震等を掲載していますので、日頃の防災の取り組みにご活用ください。

https://www.data.jma.go.jp/takamatsu/3_bousai/shizengenshou/jishin/kagawa_jishinkatsudou.html

掲載内容の詳細は以下をご覧ください。

香川県の地震活動の特徴

- > 1 香川県で発生する地震の特徴
近年、香川県で震度4以上を観測した地震を振り返る
- > 2-1 香川県に被害をもたらした地震、県内で震度4以上を観測した地震
香川県内で被害の記録が残っている地震
- > 2-2 香川県に被害をもたらした地震、県内で震度4以上を観測した地震（地震ごとの詳細な情報）
香川県内で被害の記録が残っている地震を個別に紹介する
- > 3 香川県の活断層について

過去の大きな地震について
まとめてあります。

香川県周辺の地震活動の特徴
を知ることができます。

本件に関する問い合わせ先：高松地方気象台 武丸 087-826-6122

【南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会】

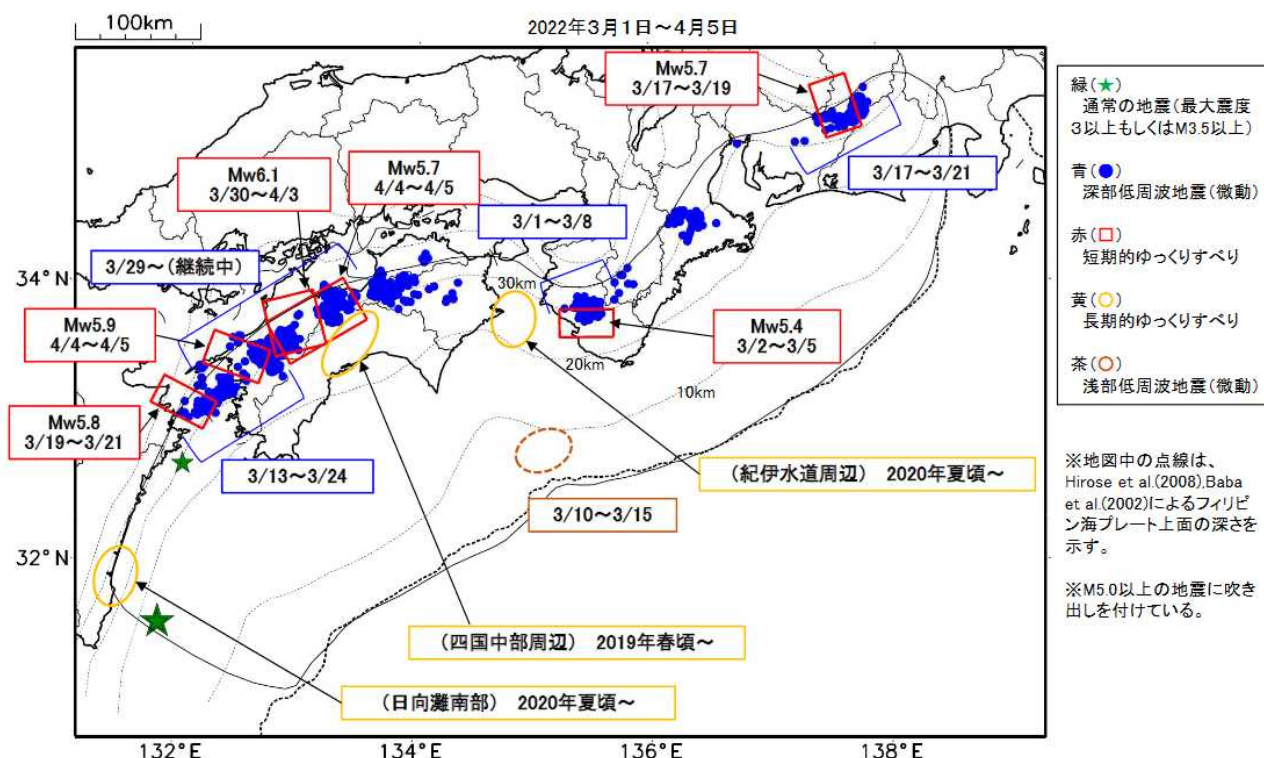
気象庁では、大規模地震の切迫性が高いと指摘されている南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催しています。

令和4年(2022年)4月7日に公表された評価検討会で評価された調査結果は次のとおりです。

【調査結果(概要)】

南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

【最近の南海トラフ周辺の地殻活動】



通常の地震(最大震度3以上もしくはM3.5以上).....気象庁の解析結果による。
 深部低周波地震(微動).....(震源データ)気象庁の解析結果による。(活動期間)気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
 短期的ゆっくりすべり.....【東海、四国中部から西部】気象庁の解析結果による。【紀伊半島西部、四国西部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
 長期的ゆっくりすべり.....【四国中部周辺、紀伊水道周辺、日向灘南部】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。
 浅部低周波地震(微動).....【紀伊水道沖】防災科学技術研究所の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

上図の深部低周波地震(青)、短期的ゆっくりすべり(赤)、長期的ゆっくりすべり(黄)について、これらの現象は、プレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力も得ながら注意深く監視しています。

なお、詳細は、次の気象庁報道発表資料をご参照ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/press/2204/07b/nt20220407.html>

また、最新の南海トラフ地震に関連する情報は次のページ(URL)をご参照ください。

ホーム> 防災情報> 南海トラフ地震関連情報

<https://www.jma.go.jp/bosai/nteq/>

【地震一口メモ】

香川県に影響を及ぼした過去の地震について

「1927年3月7日の北丹後地震」

1927年3月7日18時27分、京都府北部でマグニチュード7.3の地震が発生した。この地震の震源の深さは18kmで、震度分布は丹後半島の頸部で震度6となり、被害が大きくなった。死亡率は、峰山町で22%、吉原村で10.1%、島津村で8.2%、市場村で12.2%など大きく、家屋焼失率と並行関係にある。峰山町ではほとんど全部の家が全潰または全焼した。

「日本被害津波総覧 第2版」によると、全体の被害は死者2925人、負傷者7806人、家屋全壊（住家と非住家合計）12584棟、同半壊10886棟、同焼失8287棟である。円山川河口の津居山港で高さ30cmの小津波を記録した。

この地震により香川県では、小豆郡豊島村（現在の土庄町豊島）で崖崩れの被害が発生した。

顕著な断層の出現

この地震では、顕著な断層が2つ生じた。郷村断層（北北西から南南東の方向、長さ18km、西側が最大80cm隆起し、南へ最大270cm移動）と山田断層（前者と直角に走る。長さ7km、北側が最大70cm隆起し、東へ最大80cm移動）である。

図1は建物倒潰率の分布で、数字は10%単位である。倒潰率の大きいところは、これらの断層線に沿った地域に限られていた。

詳細な地震調査を実施

図2は余震分布で、この地震では、余震調査のための臨時観測が行われ、余震の立体分布が初めて明らかにされた。

図3は地震発生後24時間毎の余震回数で、18時を1日の境としている。特に4月1日06時08分にはマグニチュード6.4の大きな余震があり、それに伴う余震の余震があったことがよく分かる（余震活動の一時的な活発化）。

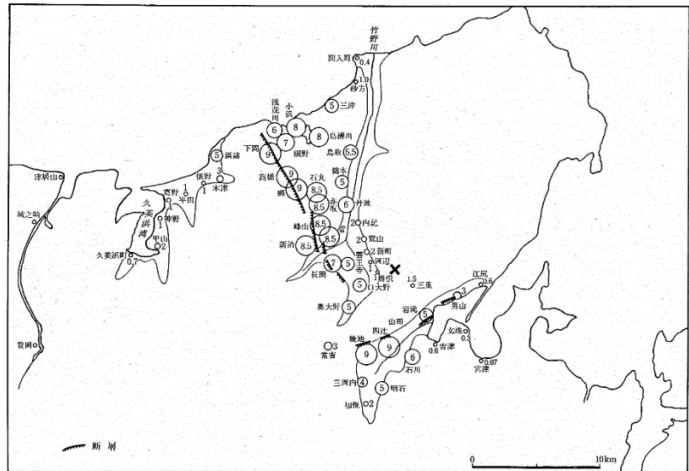


図1 建物倒潰率分布 [谷口,1927,震研彙報,3,133-162]

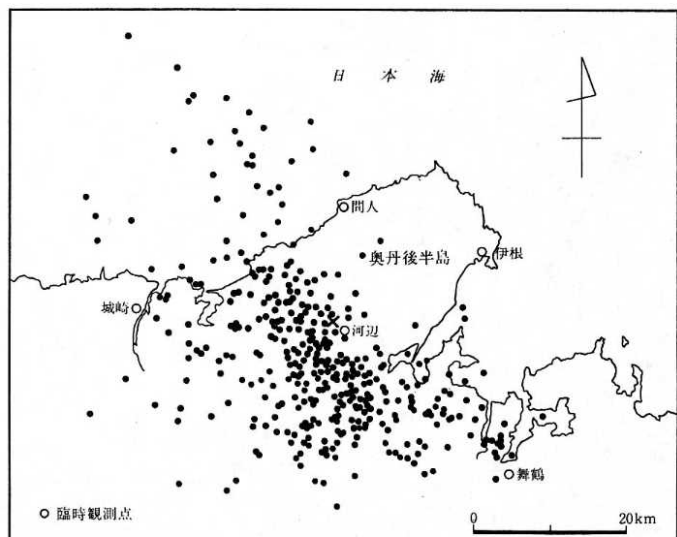


図2 余震分布 [那須,1929,震研彙報,6,245-332]

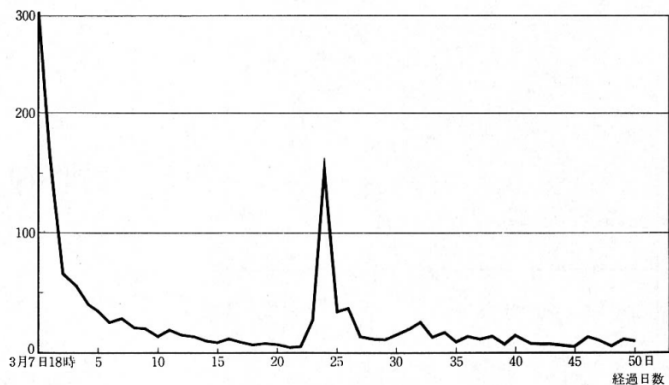


図3 24時間ごとの余震回数 [鷲坂,1928,験震時報,3,107-124]

この地震後に海底および陸上の測量が行われた。

図4は三角点の水平変位量で、水平変位量は郷村断層の両側で向きが逆で、断層から遠ざかると小さくなることが示されている。

郷村断層、山田断層の活動は、図5の水準測量の結果にもよく現れている。測量地点番号1228では隆起、1229では沈降があり、郷村断層の南西側で相対的な隆起が見られた。また、測量地点番号1235では隆起、1236では沈降があり、山田断層の北西側で相対的な隆起が見られた。

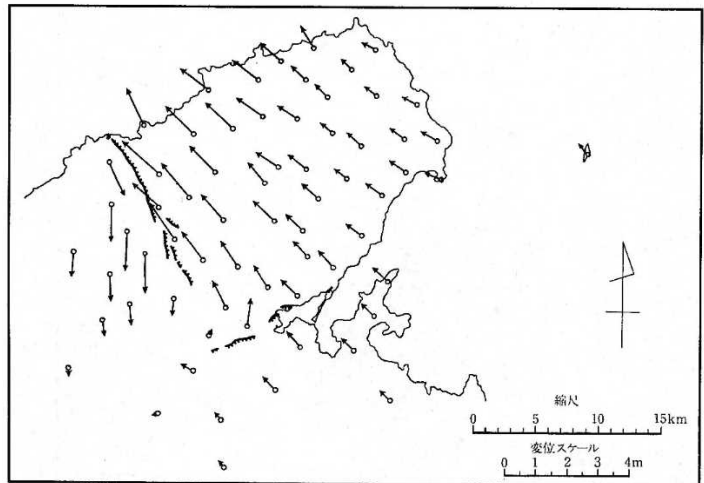


図4 三角点の水平変位量 [Tsuboi,1930,東京大学地震研究所彙報,8, 153-338]

参考資料リスト

資料1 「日本被害地震総覧 599-2012」
宇佐美龍夫 著 2013年
東京大学出版会 p288-p295

資料2 「日本被害津波総覧 第2版」
渡辺偉夫 著 1985年
東京大学出版会 p112-p113

資料3 「香川県気象災害誌」香川県防災
気象連絡会 1966年 p.33

資料4 「山田断層帯の長期評価について」
平成16年12月8日 地震調査研究
推進本部 地震調査委員会

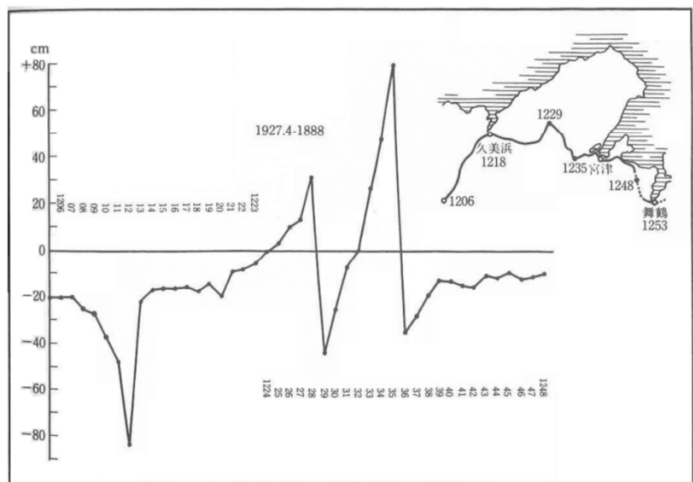


図5 水準路線の垂直変動 [檀原,1966,測地学会誌,12,18-45と Tsuboi,1931,東京大学地震研究所彙報,9,423-434]

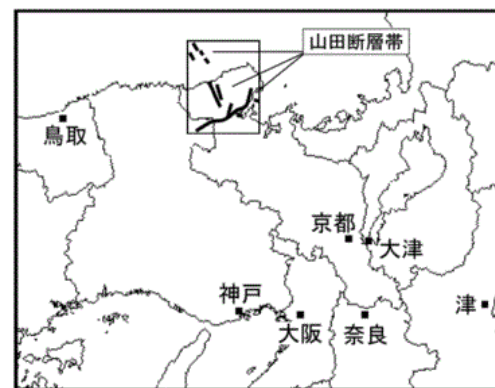


図6 (上) 山田断層帯の概略位置図
(長方形は図7の範囲)

図7 (左) 山田断層帯の位置と主な調査地点

- 1: 上山地点 2: 坂野地点 3: 下岡地点 4: 郷地点
- 5: 矢田地点

◎: 断層帯の両端(ただし、郷村断層帯の北西端については確認されている範囲)

: 1927年3月7日に発生した北丹後地震の地表地震断層基図は国土地理院発行数値地図200000「宮津」「鳥取」を使用